

2020 年度 小委員会活動成果報告

(2021 年 2 月 8 日作成)

小委員会名	温熱感小委員会	主 査 名：齋藤 輝幸 就任年月：2019 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (熱環境運営委員会)	委員長名：持田 灯 主 査 名：永田 明寛
設 置 期 間	2019 年 4 月 ～ 2023 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>(設置目的) 温熱感・快適性研究の今後の発展の促進と展開を模索する。</p> <p>初年度：関連する資料を収集・分析し、方向性について検討する。</p> <p>2 年度：検討結果を踏まえ、公開研究会等の開催を計画する。</p> <p>3 年度：調査・検討を継続する。</p> <p>4 年度：シンポジウムまたは公開研究会を開催し、情報発信を行う。</p>	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無	
	主査：齋藤輝幸 (名古屋大学) 幹事：高田 暁 (神戸大学)、後藤伴延 (東北大学) 委員：都築和代 (豊橋技術科学大学)、山岸明浩 (信州大学)、久保博子 (奈良女子大学)、 松原齋樹 (京都府立大学)、田辺新一 (早稲田大学)、室 恵子 (足利大学)、土川忠浩 (兵庫県立大学)、 宮本征一 (摂南大学)、中野淳太 (東海大学)	
設置 WG (WG 名：目的)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 温熱環境学術規準 WG：温熱心理・生理測定法等の学術規準の改訂および室内温熱環境設計学術規準の策定について検討する。 ・ 温熱環境情報発信 WG：我が国における温熱環境研究の最近の動向調査および評価と、将来の研究方向性の検討を行う。 ・ 熱的快適域検討 WG：温熱的快適域に関する基礎資料を整理するとともに、現状の快適域に関する考え方について検討する。 ・ 温熱環境と健康 WG：温熱環境と人間の健康に関する研究を概観し、人間本位の温熱環境のあり方について検討する。 	
2020 年度予算	170,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス：

項 目	自己評価
委員会開催数	1 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会承認企画	1. 公開合同委員会「暑熱環境と人体熱ストレス評価」 参加者数 115 名 (資料：2020 年建築学会大会梗概)
大会研究集会	1. (名称) 参加者数 名 (資料名)
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 温熱感研究に関連する分野の情報収集と意見交換を行った。 2. 健康影響評価に関する OS を企画するとともに、公開合同委員会にて都市環境・都市設備運営委員会と活発な討論を行い、2 年度目の目標を達成した。
委員会活動の問題点・課題	1. オンライン会議の導入により委員会等は開催しやすくなったものの、深く議論する場合には、やはり対面での開催が望ましいと考えられる。

2020 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価)・最終年度評価)

総合評価 (4 段階評価)	A	B	C	D
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>大会時の OS として、温熱環境と健康影響評価に関するセッションを 2 テーマ設定した。そのうちの 1 つについては、都市環境・都市設備運営委員会と共同して当該 OS の投稿内容を題材にした公開合同委員会「暑熱環境と人体熱ストレス評価」を開催し、12 題の話題提供と 115 名の参加申し込みを得て、活発な討論や意見交換を行った。暑熱環境に適応した建築・都市を創出していくためには、屋外の温熱環境評価と同環境下における人体生理・心理反応評価の両面から検討することが必要である。今後も同様に意見交換の場を持つことが期待でき、有意義な拡大委員会であったと考えている。</p> <p>また、大会投稿時における細分類、細々分類についても、発表者が申し込みをしやすいうように見直しを行った。</p> <p>温熱環境情報発信 WG では、特に低湿度の影響評価に関する話題提供を行い、活発な討論を行った。温熱環境と健康 WG においても関連する研究について調査し、今後の課題や活動方針について議論した。</p> <p>小委員会としての開催は最小限であったが、諸活動に制限が多かった本年度においても、温熱感分野の研究を促す活動を行うことができたと判断できる。</p>			

- 総合評価は 4 段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価 (シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など) に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。